

## 私の好きな日本の言葉 ——私からあなたへのメッセージ

### 厦門大学 阮琳榕

「おはようございます」これが教室で最初に習った日本語の言葉だった。「日本語って、元気よい言葉だな」とその時思った。

最初の授業で、日本語には挨拶がいっぱいあることがわかった。「おはよう」、「こんにちは」、「こんばんは」。「いただきます」や「ご馳走さまでした」も基本の挨拶で、「お疲れ様でした」もよく使われる。日本語学習者として、少しでも日本人の生活に近づこうと、クラスメートと会ったり、食事したりする時は必ず日本の挨拶をすることにした。でも、毎日同じ挨拶を繰り返していると、次第に飽きてしまい、挨拶なんてただの建前で、意味のないものだ、と思うようにもなった。

ところが、最近日本を訪れることがあり、それをきっかけに、私の考えは変わった。飛行機を降りると、日本人のガイドさんが迎えに来て、「初めまして」と挨拶してくれた。初めての海外経験でテンションが上がった私は、明るい声で「こんにちは」と答えた。

「東京、暑いでしょう。今日はこれから製鋼工場を見学する予定です。体調を崩さないように気をつけてくださいね」とガイドさんは言った。

バスに乗って、まもなく製鋼工場に着いた。夏の暑さに加えて、工場の熱気にやられ、元気がなくなってしまうと、案内してくれる男の人が水を一本手渡してくれた。

工場の係員の方だった。「大丈夫ですか。こんな暑いところへ見学にきてくれてありがとうございます。体調を崩さないようにね」と優しく声をかけてきてくれた。

「少し休んで、クイズでもやりましょうか。うちはね、昼でも夜でも出勤したらこんにちはやこんばんはではなく、なんでしょう？」

「おはよう」と私は自信満々で答えた。なぜなら、とっくに知っていると思ったからだ。コンビニなど 24 時間働く職場では、元気が出るように朝でも夜でも全部「おはよう」で挨拶するというのを聞いていたからだ。

しかし、そうではなかった。係員の方によると、「ご安全にですよ。工場はね、事故の可能性があるので。鋼の品質より、まずは働いている皆の安全が一番です。だから、仕事する前もした後も、ご安全にって挨拶するのですよ」

それを聞いて、こういう挨拶もあるんだと、目から鱗が落ちる思いだった。工場見学が終わり、バスに乗って工場を離れるときも、係員の方は「さよなら」ではなく、「ご安全に」と声をかけてくれた。

「ご安全に」という挨拶には深く考えさせられた。今まで挨拶といえば、特に意味もない言葉の繰り返しだと思っていた。挨拶なんて、誰でも自然に覚える単語だと思い込んできた。しかし、ご安全にのような挨拶もあるのだと、初めて知った。別れるとき、係員の方は、どうして「ご安全に」と言ってくれたのだろう。工場で聞いた「ご安全に」と私がしてきた挨拶とは何が違うのだろうと、自問せざるを得なかった。

その後、一週間の日本滞在を通して、ようやく答えのようなものがわかった。それは、挨拶に込められた思いだ。私は今まで何も考えず、ただ真似するつもりで、朝ならおはよう、食事ならいただきますと使ってきた。そこには込められた思いもなく、意味もなかった。けれど、工場見学で出会った人達の挨拶には、相手に対して込められた思いやりがあった。だから気持ちを伝えることができ、意味のある言葉になる。あの工場の係員の方が最後に、「さよなら」の代わりに「ご安全に」と言ってくれたのも、ただ別れの気持ちだけではなく、一日の思い出なども込めて、「ご安全に」になったのではないか。「ご安全に」をきっかけに、ようやく挨拶に込められた思いの大事さがわかるようになった。

私はいつか、「ご安全に」とあの工場の係員の方に挨拶しようと考えている。仕事で安全に気を付けてほしいのはもちろんだが、お世話になった感謝も、またお会いできたうれしさも、そして、「ご安全に」という私の好きな日本の言葉を見つけてくれたありがたいみも、全部、伝えたいのだ。